

岩手の水生生物の現状と人の影響 —生態と保全・活用の視点から—

第6次生物多様性国家戦略では、ネイチャーポジティブ(自然再興)を軸として、生物多様性保全を目的とした自然再生の推進や人による汚染のさらなる削減、地域での保全・再生活動と積極的な活用が求められています。岩手の自然は豊かであると言われますが、水環境が置かれる現状にはどのような課題があるのでしょうか。ここでは、殺菌剤が水生昆虫に与える影響、希少野生生物が生息する県内の河川環境の現状、市街地近郊に残された自然と再生された河川に生息する希少野生生物の保全と市民活動の役割など、岩手の水環境の課題を明らかにすると共に、少しでも良好な状態で後生に残していくための糸口を探ります。

日時:2025年11月22日(土曜)13時30分~17時頃(ハイブリッド予定)

場所:盛岡駅西口駅前 岩手県立大学アイーナキャンパス
(県民情報交流センター アイーナ7F 学習室1)

参加無料



<タイムテーブル>

13:30~13:35 開会挨拶(中野和典 支部長)

13:35~14:20 高橋真司 岩手県北河川を対象とした

水生昆虫の食物網を介した抗菌性物質の挙動について

14:20~15:05 渡辺修二 カワシンジュガイ生息状況からみた岩手の河川環境

15:05~15:20 休憩

15:20~16:05 辻 盛生 都市河川でもある木賊川におけるカワシンジュガイ生息環境の特性と課題

16:05~16:50 鈴木正貴 地域住民と大学研究者の協働によるホトケドジョウ生息地の保全

16:50~17:00 閉会挨拶(玉置仁 副支部長)

18:00~20:00 情報交換会

参加申し込みは下記アドレス、もしくは右のQRコードから参加登録フォームにアクセスし、

必要情報をご記入ください。<https://forms.gle/pGKkAvPiWcBx62WJ6>

問い合わせ:日本水環境学会東北支部幹事

辻 盛生(m_tsuji@iwate-pu.ac.jp)

